

## はじめに

学校現場は今、情報社会の中で様々な変化の波にさらされています。そのような中で、一斉授業の形態になじめない子どもや人間関係でトラブルを起こしやすい子ども達の増加に加えて、いじめ、不登校、引きこもりなど、様々な「心の問題」も多様化しています。このような状況において、学校には大きな教育の使命が二つあります。その一つは学力を身につけさせ生徒一人一人のキャリア発達を促進し希望する進路を実現させること、そしてもう一つは社会性を身につけ立派な社会人としての人格を持つ人間の育成です。学校が教育目標を達成するために、生徒指導は人格の形成を図る上で重要な役割を担っているといえます。だからこそ、問題行動を起こした児童生徒に対応することが生徒指導ではなく、全ての子どもの発達を支援し、発達過程で生ずる様々な悩みや課題を援助していくという組織的・体系的な取り組みを行っていく必要があります。

つまりは、学習指導要領に定められているように、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めていくことが求められているといえます。

そこで、本書は、教職課程の学生が生徒指導を行う上での必要な知識を得ることができると共に教育実践現場でも役立てることができるよう、また、現職の教師は生徒指導を進める上で実践の場に役立てることができるよう、「生徒指導提要」を踏まえたテキスト・参考書として作成しました。本書では、生徒指導の意義と概念をおさえたうえで、生徒指導と学校運営、学級経営、法制度、教育課程、教育相談との関連を述べ、発達段階と具体的な今日的課題について説明しています。